

2020.7.11

紙つぶて

東京都知事選が終わった。コロナ禍の中、どんな結果が出るだろうかと思ったが、結果は現職圧勝であった。投票率も高まらなかった。ここまでの都政が積極的に評価されたというよりも、日々の生活不安の中、大きな変化を望まない安定志向が働いたのかもしれない。テレビ討論会も行われず、改めてメディアの役割が問い直されることになった選挙でもあった。

次点で落選した宇都宮健児氏はツイッターで「私は選挙は運動だと思っている、課題を解決するために運動を続けていく」と書いている。この「運動」とは社会運動を意味するのだろうか、身体運動にあてはめて考えてみるのもわかりやすい。



都知事選を終えて

水島 広子

運動は続けることに意味がある。最初は大した筋力向上にもつながらないし、ひどい筋肉痛に終わるかもしれないが、持続する中で筋力がついてくる。本物になって定着するのだ。

私もかつては衆院選の当事者であったし、「選挙は結果がすべて」は真実である。しかし、運動そのものに意味があることもまた真実だと思つ。芸能人など、今まで政治的発言をしなかった人たちが発言し始めている。時代は変わってきていると思つ。今回の都知事選に向けての盛り上がりや「助走」と考えて、これからさらに運動を続ける、と思えば、絶望感や無力感にとらわれずにするのではないだろうか。

(精神科医)